

(別紙 1)

論文の内容の要旨

論文題目 近代中国におけるプロテスタント医療宣教の展開
—中国医療伝道協会を中心に(1886-1932)
氏 名 曹 貞恩

本論文は近代中国の社会や医療に大きな影響を与えたプロテスタント医療宣教師の団体である中国医療伝道協会(The China Medical Missionary Association)を取り上げ、その活動を明らかにするとともに、医療伝道事業の土着化について論じたものである。本論文でいう医療伝道事業の土着化とは、ミッション系病院及び医学校における運営・管理権が、外国人医療宣教師から中国人に移っていくことを意味している。医療伝道事業の土着化に関する研究は、中国におけるキリスト教の土着化問題を考察するために不可欠であるのみならず、近代中国の社会や医療界を理解するためにも必要な作業である。

まず第一章では、医師と宣教師という二つの顔を持った医療宣教師のアイデンティティ問題について考察し、医療宣教師の活動の重点が、時代とともに福音伝道から医療活動及び医学教育に移っていったこと、そのような変化がとくに 1920 年代から加速したことを明らかにした。医療と伝道の分離が 1920 年代に入ってから急速に進んでいった理由としては、①教会や学校のような伝道機関が普及してきたことによって、病院の伝道機関としての役割が小さくなったこと、②キリスト教とは関係のない病院が増えており、もしミッション系病院が専門化しなければ、淘汰されるという危機感が生じたことが挙げられる。

医療宣教師が医療活動に精力と関心を集中していく過程は、病院や医学校における伝道活動の大きな部分が中国人の影響下に置かれるようになったこととも密接に関連する。この現象は、中国における医療伝道事業の土着化の一つの表れとして理解できる。またこのような医療宣教師の性格の変化は、中国医療伝道協会にも大きな影響を与えたのである。

第二章では、1907 年から 1932 年までの中国医療伝道協会の変化及び中華医学会との合併に至る過程を考察した。1907 年に中国医療伝道協会は、雑誌名から Missionary という一語を削除するとともに、協会名として「博医会」、機関誌名として『博医会報』という中国語名称をつけた。そのため本論文では、1886 年から 1906 年までは中国医療伝道協会、1907 年からは博